061209

２学期終業式　西条高校（全日制）

皆さん、おはようございます。今年もあと１０日ほどになりました。この１年は、皆さんにとってどんな年だったでしょうか。今年は、辰年でした。辰は龍のように「天に昇る」勢いで成長していくことができる年だと言われていますが、皆さんは、どうだったでしょうか。

今日は、最近考えさせられたことについて少しお話したいと思います。

まず最初は、私の５歳の孫のことです。先日、愛媛に帰省した孫を連れて、ストライダーでレースのできる場所へ出かけました。ストライダーとは自転車のような乗り物で、ペダルやブレーキがなく足で地面を蹴って進みます。そこでは、1歳半から６歳の子どもだけがストライダーに乗ることができました。孫は初めて乗るので、最初は大変苦戦し、「青あざができた。もうやめたい。」と泣きべそをかいていました。しかし、２歳ほどの小さな男の子に抜かれた途端、彼女の表情が変わりました。明らかに、「負けたくない」という顔になったのです。瞬く間に、地面を蹴る力が強くなり、ストライダーがビュンビュン加速するようになって、結局２時間も乗り続けました。今の時代は、「優しくて性格の良い子」に育つと安心という保護者が増えていると聞きます。しかし、「競争は不要なもの」「勝ち負けは重要ではない」と言われて育った子どもたちが、社会に出たらどうなるでしょう。実際の社会は、残念ながら競争の繰り返しであり、結果は勝ち負けとして判断されるというのが実態です。私は、「負けん気は、大事な才能。それをうまく利用して、自分の能力をどんどん伸ばすべきだ。」と思っています。

もうひとつは、「納豆を片手で食べられる道具を開発し５つの金賞を獲得」した岡山県の女子高校生の話です。彼女は、高校１年生の時に右手を骨折し、大好きな納豆を１人で食べられなくなったことをきっかけとして、この道具の制作を決意しました。納豆をテーブルに固定する道具、納豆のたれを片手でこぼさないように開ける道具を試行錯誤して開発し、それが今回の受賞につながりました。開発中は苦労の連続で、自分自身に負けそうになったそうですが、「絶対あきらめたくない。」と自分に言い聞かせて奮い立たせたといいます。また、記事を読み進めていくうちに、彼女は中学生の時に片手麻痺の友人が生活しやすくなるための道具をいろいろと作っていたという事実を知り、とても感心しました。私も以前松葉杖の生活をしていた時に、学校が障害物だらけの場所であることに気づきました。当たり前が当たり前ではなくなった時、気がつくことは多いものです。彼女のすごいところは、「自分の骨折した経験」から「人のために役立つこと」と発想を転換し、多くの人のためになる自助具を作っていることです。このような「気づき」は特別な能力ではなく、気づこうとする意識が大切なのだと強く感じました。

この２つの話から、私は西条高校の生徒の皆さんに、ぜひ「負けん気を出して、みんなと違うことをやってみよう。」と言いたいのです。考えても見てください。皆さん一人ひとりは、全く違う人間です。他の人と「違うこと」があるとすれば、それが皆さんの「個性」であり、魅力に違いありません。みんなと同じ「普通」でいる必要は、全くないのです。確かに、目立ちたくないと思うのも分かります。みんなと同じことをする安心感というものもあるでしょう。でも、ここぞという時には自らの心の声に耳を傾け、自分のやる気スイッチをバコーンと押して、「負けん気」全開で、自分の道を突っ走ってみるのもいいと思いませんか。

奇しくも、来年は巳年。巳年は新しい挑戦、前向きな姿勢を示す年と言われています。心やさしい西条高校生である皆さんが、心に秘めた「負けん気」をしっかり伸ばし、さらなる活躍してくれることを期待して式辞とします。